

がくいんふくいんか
学院福音化2023年6月第3課
きょうかい い はたら
教会を生かす働き

ないよう つち うつわ しんぶ きょうかい
フォーラムの内容：土の器、新婦、教会

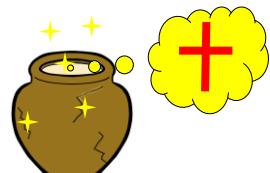
だい か
第3課では、IIコリント4章と5章の内容を見ていますが、今日は4課だけを中心黙想しましょう。

IIコリント4:16-18

16 ですから、私たちは勇気を失いません。たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。

17 今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。

18 私たちは、見えるものにではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。



IIコリント4章の核心的な内容は7節にあります。

IIコリント4:7

私たちは、この宝を、土の器の中に入れています。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。

ここで「土の器」ということばが出てきます。これは、私たちのアイデンティティを言っているのです。神様によって形造られた、造られたということです。私たちは、単なる土の器ではなく、宝を入れている器だと言われています。その宝は「イエス・キリスト」です。

土の器をギリシャ語そのままを直訳すると、「土で作られた器」と、もう一つ「壊れやすい花嫁（新婦）」という意味があります。

‘土の器’ = 壊れやすい花嫁（新婦）
(σκευος / skeuos)

そのような意味が書いてある聖書の箇所を見てみましょう。

Iペテロ3:7

おな同じように、夫たちは、妻が女性であって、自分よりも弱い器だということをわきまえて妻とともに生活し、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためです。

ここで明らかにされているのは、妻に対して「弱い器」だということです。そのように、土の器という意味には「壊れやすい新婦」という意味が含まれているのです。

IIコリント4:7とIペテロ3:7で、同じように使われている「**土の器**」という単語 (σκευός / skeuos) は「**新郎**に完全に従順にした新婦」という意味を持っています。これは、**男尊女卑**（男性を優先し、女性を軽視すること）を言っているのではなく、聖書が言っている新郎と新婦の関係がそういう関係だということです。理解を深めるため創世記を見ましょう。

創世記2:21-23

21 神である主は深い眠りをその人に下されたので、彼は眠った。そして、彼のあばら骨の一つを取り、そのところの肉をふさがれた。

22 神である主は、人から取ったあばら骨をひとりの女に造り上げ、その女を人のところに連れて来られた。

23 人は言った。「これこそ、今や、私の骨からの骨、私の肉からの肉。これを女と名づけよう。これは男から取られたのだから。」

アダムを眠らせて、アダムのあばら骨を一本取って、女性を造りました。これは、信徒とキリストの関係を説明している内容です。エバがアダムから出たように、神の民はキリストから出て来たことを言っています。エペソ人への手紙では、新郎であるイエス・キリストを教会のかしらとし、教会はそのからだであると表現しています。

エペソ1:22-23

22 また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。

23 教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

また、エペソ5章では、キリストと教会の関係を夫と妻との関係として話しています。

エペソ5:22-23

22 妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。

23 なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。

 神様がアダムからエバを造られたように、キリストから教会である信徒たちを出るようにされ、新郎であり夫であるキリストのからだを、新婦であり妻である私たちに与えてくださったのです。神様がアダムのあばら骨でエバを造られたように、キリストの骨と肉と血を私たちに与えてくださいました。これは十字架を意味します。

それゆえ、私たちは新郎であるイエス・キリストの栄光のために、私自身をいつでも壊れた、また、つぶされた従順の場に持って行かなければなりません。従順というのは、私の意思、こころざしが、新郎の前で完全に崩れることを意味します。しかし、壊れてつぶされる過程で、新婦（花嫁）である私が、どのように評価されても、どんな扱いを受けてもだいじょうぶになるべきです。



わたし じ が こわ れることを、ひとびと ひと ひと じぶん ことをまちがって評価されると、それには耐えられません。それが、創世記3章の自分中心（私中心）の人間の姿です。しかし、そのような私の自我さえも、キリストの前でつぶされなければならないのです。なぜなら、それは、土の器の中の宝があらわされなければならないからです。ですから、土の器という単語の意味は、「壊れやすい」ということです。

そのように、土の器を新婦として表現することができ、教会として表現することができます。



IIコリント4章で、パウロは、宝であるイエス・キリストをどのように表現しているのでしょうか。

IIコリント4:4

その場合、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。

IIコリント4:6

「光が、やみの中から輝き出よ」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。

7節の「宝」のことを4節では「キリストの栄光にかかわる福音の光」また、6節では「神の栄光を知る知識（韓国語では神の栄光の光）」と言っています。「光」という単語が入っています。

私たちの存在が、キリストの光でなければ、暗やみでしかなかったことを言っています。私たちのアイデンティティは、「私は死んだ土です」という告白がなければなりません。「神様の光、栄光の光が私に臨まなければ、私はいまも変わらず死んだ者です」ということです。

土の器が壊されることによって、宝であるキリストの光、神の栄光の光が照らされなければなりません。器の中に隠していたら、見えないでしょう。それゆえ、7節以降に、「壊れる」ことは、どういうことかを語っています。

IIコリント4:8-11

8 私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれていますが、行きづまることはあります。

四方八方から苦しめられることがあり、途方にくれることがあるということです。そのようなことは「ない」と言っているのではありません。必ずあると言っているのです。しかし、そのようなことがあっても、窮することや、行きづまることはないと言っているのです。

9 迫害されていますが、見捨てられることはできません。倒されますが、滅びません。

迫害されること、倒されることがあるということです。しかし、見捨てられることはなく、滅びないです。

10 いつでもイエスの死をこの身に帯びていますが、それは、イエスのいのちが私たちの身において明らかに示されるためです。

11 私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されていますが、それは、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において明らかに示されるためなのです。

イエスの死をこの身に帯びていると言っています。6月1課で見ましたが、IIコリント1章でパウロは生きる希望さえもなくなったことを言っていました。まるで死刑を宣告されたような者になっていたと言っています。10節では「イエスの死をこの身に帯びている」と言っていて、11節でも同じようなことを言っています。

パウロは土の器が壊されることを、苦難や患難として表現しています。しかし、そのような壊されることによって、私の中にある宝がもっと現わされるようになるということです。

そのように壊されること、宝があらわされる目的は何でしょうか。

IIコリント4:15, 17を見ましょう。

15 すべてのことはあなたがたのためであり、それは、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現われるようになるためです

17 今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。

すべては神様の栄光のためであると言っています。



私たちは、よく壊されて、神の光、神の栄光だけがあらわされるように願います。

3課「教会を生かす働き」とは、土の器、新婦、教会である私たちが、よく壊されなければならないということです。このような働きが私たちの生活の中にあるように、祈ります。